

福祉安全委員会行政視察報告書

委員名： 愛敬 重之

視察先：東京都 武蔵野市

視察日時：平成24年7月19日 午前・**午後** 13時55分 ～ 午前・**午後** 15時26分

【 視察事項 子育て施設について 】

＜視察を通しての考察・参考となった事例・感想等＞

7月19日：武蔵野市 子育て支援策と0123について

1 武蔵野市の基礎データ

児童数(0歳から14歳)：1万4,898人(うち就学前6,186人)人口比10.9%

武蔵野市の合計特殊出生率：0.97(平成22年、多摩26市中最低)

(65歳以上28,088人 高齢化率20.6%)

幼稚園：私立12園

保育所：公立7園、私立8園(公益財団法人武蔵野市子ども協会立2園を含む)

認証保育所：9園 保育ママ：7人

学童クラブ：公立12か所(全校)に設置 私立3か所

地域こども館あそべえ(放課後子ども教室)：12か所(小学校全校)

児童館：1か所

2 子ども施策を推進する組織

平成元年機構改革児童婦人部創設：従来各部に散在していた子ども関連業務を統合し、児童の健全育成、生活環境づくりなど総合的な角度からサービスの強化を図り、全児童対策として一元的に推進できる体制として設置。(児童婦人室、児童課、保育課)

平成14年4月機構改革：乳幼児から青少年まで総合的に子ども施策を推進していくため、子ども家庭部(子ども家庭課、児童青少年課、保育課)を設置。

平成23年4月に公益財団法人化した武蔵野市子ども協会(5つの施設)との連携を図りながら、子ども施策を推進していきます。

3 予算

556億5千万(平成24年度一般会計)

- ・ 児童福祉費予算：77億4,464万4千円
- ・ 児童対策費予算：3億1,304万1千円

4 武蔵野市の子育て支援策について

○子どもプラン武蔵野

子ども施策の一層の推進を図るため、第四期基本構想・長期計画の分野別アクションプログラム(実施計画)であるとともに次世代育成支援対策推進法(平成15年7月施行)に基づく後期市町村行動計画として、「第三次子どもプラン武蔵野」を平成22年2月に策定しました。計画期間は、平成22年度から26年度までの5年間で、(1)すべての子どもたちの健やかな育ちを大切にする、(2)家庭の子育て力を高めることを支援する、(3)地域社会全体で子育てを支援する、(4)多様な学びの場を通じた体験を重視する、の基本的な考え方をふまえ、子ども施策を総合的に推進するため、7つの「基本目標」を設定し、29の施策・122の事業を推進しています。また、9つの項目を重点的取組として進めています。

本市が取組んでいる主な施策は、下記のとおりです。

① 保育園を含む乳幼児期の子育て支援の充実について

・0123施設(吉祥寺・はらっぱ)

0歳から3歳までの、家庭で子育てをしている親子を対象とした子育て支援施設。親同士の交流や学習、子育て相談、情報交換の場として、イベントや講座、講演会なども開催。

・子どもテンミリオンハウス「あおば」

市民から提供された家を改造して、NPO法人「ひまわりママ」が、一時預かり保育(登録制)、親子で楽しむ子ども部



写真の様に道が狭い為、自転車・ベビーカーがメインです。



武蔵野市 子ども家庭部
子ども家庭課 北原課長から
説明を受ける福祉安全委員

屋、子育て相談などを実施。

・乳幼児、義務教育就学児医療費助成

就学前の乳幼児の保険診療自己負担分、義務教育就学児の保険診療自己負担分の3分の1を、所得制限を設けずに実施。21年10月から義務教育就学児も無料化実施。

② 全児童対策としての地域子ども館「あそべえ」、放課後児童対策の学童クラブなどの充実について

・平成14年度より、地域子ども館「あそべえ」

放課後や土曜日などの安全な居場所で、小学生1年生から6年生までが一緒になって、教室・図書館・校庭を使い、自分の考えで自由に遊べる自由来所型の施設。小学生12か所全校に設置。運営は、地域の人が中心の「地域子ども館企画運営会議」を設置し、各館ごとの運営方針や年間の事業計画などを決め実施。

・学童クラブ

小学生低学年児童の保護者の就労、疾病等のため放課後監護に欠ける児童の健全育成を図っています。学童クラブの現在の役割と将来あるべき姿と、地域子ども館・あそべえ、児童館をも含めた小学校児童の放課後対策のあり方について「小学生の放課後施策推進協議会」で検討を行っています。

③ 子ども家族支援センターの設置について(今回、子どもを虐待から守る都市宣言の請願がありましたので赤で記載)

・児童虐待の未然防止施策及び子育てで家族への支援を実施することにより、児童の健全育成を図ることを目的に「武蔵野市児童虐待の防止及び子育てで家族への支援に関する条例」を平成16年2月に施行し、子育ての総合相談窓口として「子育てSOS支援センター」を設置しました。

・その後、昨年4月に、子ども家庭支援、ひとり親支援、地域子育て支援の3担当からなる子ども家庭支援センターを庁内に設置し、様々な取り組みを行っています。

・電話(夜10時まで)での相談や来所、訪問による相談、子育て支援サービスの一環としての「子育てショートステイ事業」「産前産後支援ヘルパー事業」等を行っています。また、子どもに関わる施設・組織が情報交換及び協議を行うネットワークを作り、連携して児童虐待の未然防止と子育てで家族への支援を図っています。国の先駆型子ども家庭支援センター補助金を受けている。

・ひとり親相談やDV相談の子ども家庭支援センター内で受け付けています。

・地域子育て支援については、「コミセン親子ひろば」事業(コミュニティーセンターを活用した自由来所型の就学前の子どもと親が交流できるひろば(場所)で、コミセンによって開催日数等が異なるが月1回は、子ども家庭課のスタッフが出向き、子育てや家族についての相談や情報提供を行っています。コミセン13箇所(実施)や公園親子ひろば、ふたごちゃん・みつごちゃんの集い等々、様々なひろば事業を行っているほか、現在、子育て支援情報発信の拠点となる子育てステーション制度について検討しています。

5 0123 事業のきっかけ

0123 施設は、吉祥寺とはらっぱと2館、吉祥寺開館は平成4年11月、はらっぱ開館は平成13年5月です。0123のきっかけは、昭和61年9月に設置された武蔵野市子ども問題懇談会です。当時、都市化、核家族化、地域コミュニティの希薄化などから、幼い子どもと親たちの遊び場がない、友達ができない、夫が仕事に出かけると母親と子どもだけの狭い生活にとじこめられるという状況が見受けられました。また、育児ノイローゼや子ども虐待なども憂慮された状況にありました。

0,1,2歳の80%近くと3歳児の半分が家庭保育の子どもたちで、これら乳幼児には市の施策がされていないということで、子ども問題懇談会に、①子どもの発達環境の現状と問題を明らかにすること、②その問題解決のための従来の行政の枠をはなれて考え、実行の方策を立てることの2点が市長から諮問されました。

答申の中で、子どもに保護と豊かさ発達環境を提供する新しい子どもの発達環境「子どもコミュニティ」は、地域、市民と行政との共同作業で創出できるということが盛り込まれ、実現の方策が提言されました。

ちょうどその頃、市内に長い伝統をもつ私立幼稚園が閉園されることとなり、その跡地に0123吉祥寺が建設されることとなりました。

○指定管理

0123 施設は、公の施設であり武蔵野市の施設ですが、管理運営については、指定管理については、指定管理者制度をとっており、平成23年4月に公益財団法人となった「武蔵野市子ども協会」が行っています。

平成4月1日に発足した武蔵野市子ども協会は、0123吉祥寺の開設に先立って発足しました。

○予算

・0123 吉祥寺とはらっぱの2館の管理運営に要する経費:9,655万円

0歳から3歳までの、家庭で子育てをしている親子を対象とした子育て支援施設。親同士の交流や学習、子育て相談、情報交換の場として、イベントや講座、講演会なども開催。

その支出の主な内容は、0123の指定管理者である武蔵野市子ども協会への管理運営委託料 約8,900万円です。施設

維持工事費、光熱水費等の予算を計上しています。

・0123 吉祥寺のみの委託料は、4,221 万9千円、24 年度は維持修繕工事費や光熱水費等、市側の予算は約 416 万円



0123 には子どもの、斬新な発想を引き出すようなオブジェなどあり、今度建設される桑名市子ども子育て・生涯学習複合施設には、地元のデザイナーさんに設置してもらおうと良いのではないかと感じました。



← 2Fに上がる階段にも普通の施設のイメージではなく、「子どもの為の施設」が感じられる絵がありました。

この絵を見るだけでぬくもりのある施設だなと感じました。

桑名市も子どもの施設はこのようにして下さい。

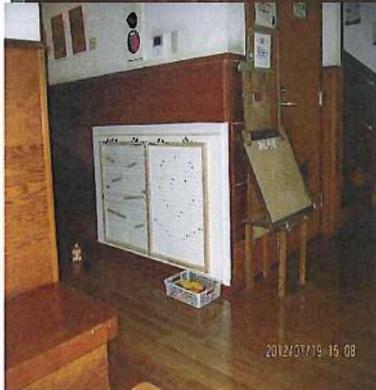


← 武蔵野市 0123 の子ども子育ての目標が見える場所に掲げてありました。これなら、ここに来るお母さんにも良く理解されると思います。

PRの仕方参考になると思います。



← 2Fから下の子どもが遊ぶ様子が分かり自分の子どもだけでなくここにいるお母さん達が注意し合えるようになっていました。



壁には、らくがきやゲームが出来るようになっていました。窓や壁には子ども達の作品が沢山ありました。

桑名市の子ども子育て施設にも多く取り入れていただいていると思います。

施設中はやはり木質が良いかと思えます。

ここでの私の質問

0123 に来るお母さんの悩みの多くはどのようなものがありますか？

0歳のお母さんでは、夜泣き・母乳・離乳食のタイミングです。1歳では、発育の様子・歩行の時期(早い・遅い)等発達についてです。2歳～3歳では、友達が出来トラブルになった時の悩み、都会ですので、塾の関係や、お母さん同士の付き合い関係などが多くあります。



(まとめ)

桑名市も陽だまりの丘に子ども子育て生涯学習の複合施設が建設されます。写真のように、子どもが利用する施設です。成長が感じられる工夫(樹木)を植えたり、外から見てもやわらかい感じの砂場や水遊びが出来るエリアなどぜひ考えていただくようお願いいたします。施設内についても出来るだけソフトなカラーや木質も考えて下さい。

桑名市、子ども子育ての目標がだれでも分かる様に施設には、掲示していただければ幸いです。

以上